

青刈えんばくの播種期と収穫期の差異がその養分 収量に及ぼす影響

細山田文男*・児玉重方*

HOSOYAMADA, H. and KODAMA, S.

The Effect of the Seeding Date and Harvesting Date Difference
on the Nutrient Yield of Soiling Oats.

宮崎県における青刈えんばくの播種期および収穫期の適期と、その養分収量の変化を知るために、日向改良えんばくを用いて、その青刈収量と一般化学的組成の調査を行った。

試験方法 耕種概要は畦巾 60 cm の条播として、1 アール当りに 1.44 t 播種し、肥料は基肥として堆肥 120 kg, 硫安 2.4 kg, 過石 2.4 kg, 塩加 1.2 kg, 追肥とし

*宮崎県農業試験場

て硫安 1.2 kg を刈取後施した。播種期は昭和 31 年 9 月 28 日より 30 日毎に 3 回、収穫期は 12 月 27 日より 6 回に分け、それぞれを組合せして刈取を行った。刈取時の生育のステージは、9、10 月播の 3 月 26 日刈取は出穂初期前後、11 月播の 4 月 23 日刈取は開花期で、この外の 4 月 23 日以後の刈取は総て乳熟期に行つた。

試験成績及び考察 発芽状況は第 1 表の通りである。

第 1 表 発 芽 調 査

播種期	発芽始	発芽揃	発芽日数	発芽歩合
9月28日	10月3日	10月5日	7日	} 89.5%
10月28日	11月3日	11月5日	8日	
11月27日	12月16日	12月23日	26日	

備考：発芽歩合はシャーレによる。

発芽は11月27日播種が長日数を要したが、これは播種後に雨が少なく、乾燥した為と思われる。

収量成績は第2表の通りである。

第 2 表 収 量 調 査 (1アール当り)

播種期	1 回 刈				再 生 分				合 計	
	収穫期	生草収量	風乾歩合	乾草収量	収穫期	生草収量	風乾歩合	乾草収量	生草収量	乾草収量
9月28日	12月27日	173.1	21.91	37.93	4月23日	366.5	21.82	79.97	539.6	117.90
	2月28日	328.7	17.19	56.50	5月4日	210.4	21.31	44.84	539.1	101.34
	3月26日	432.0	22.41	90.81	5月13日	108.8	22.49	24.47	540.8	121.28
	4月23日	539.2	23.17	124.93	—	—	—	—	539.2	124.93
10月28日	2月28日	135.9	16.74	22.75	5月4日	170.9	21.58	36.88	306.8	59.63
	3月26日	281.9	20.58	58.02	5月13日	95.9	21.67	20.78	377.8	78.80
	4月23日	334.7	22.17	74.20	—	—	—	—	334.7	74.20
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
11月27日	3月26日	118.0	17.82	21.03	5月13日	124.0	18.29	22.68	242.0	43.71
	4月23日	252.2	15.29	38.56	—	—	—	—	252.2	38.56
	5月4日	261.6	22.07	57.74	—	—	—	—	261.6	57.74
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

第 3 表 養 分 収 量 (生草中) 1アール当り kg

播種期	収 穫 期		水 分	固形物	粗蛋白質	粗脂肪	粗灰分	粗繊維	可溶無窒素物
	1 回 刈	再 生 分							
9月28日	12月27日	4月23日	425.42	114.18	16.27	3.82	8.96	23.85	61.28
	2月28日	5月4日	442.16	96.94	12.22	3.61	8.09	25.36	47.66
	3月26日	5月13日	426.16	114.64	14.11	5.86	8.70	25.14	60.83
	4月23日	—	429.26	109.94	8.84	2.16	7.23	27.34	64.37
10月28日	2月28日	5月4日	251.16	55.64	6.92	1.81	4.53	14.33	28.05
	3月26日	5月13日	302.18	75.62	9.18	3.48	4.83	16.74	41.39
	4月23日	—	264.48	70.22	5.59	1.27	4.75	21.42	37.19
	—	—	—	—	—	—	—	—	—
11月27日	3月26日	5月13日	200.93	41.07	5.22	1.47	3.35	9.80	21.23
	4月23日	—	215.23	36.97	4.36	0.73	3.35	10.77	17.76
	5月4日	—	203.39	58.21	4.53	1.62	4.16	17.11	30.79
	—	—	—	—	—	—	—	—	—

青刈収量は9月播で約540kg, 10月播で約330kg, 11月播で約250kgあつて、早播きした方が多かつた。9月播では、乳熟期に1回だけ刈取つた場合と、1回刈を年内、2月下旬、3月下旬にそれぞれ行つ

て、再生分を乳熟期に刈取つた場合の総収量と殆んど同量であつた。

一般化学的組成について分析し、養分収量を計算すると第3表の通りである。

粗蛋白質収量では、早播きした方が多く、その中でも1回目を年内に刈取り、乳熟期に2回目を刈取つた場合が最も多く、次いで、1回目を3月下旬に、2回目を乳熟期に刈取つた場合であつた。10、11月播で

は、1回目を3月下旬に、2回目を乳熟期に刈取つた場合が多かつた。

摘 要 宮崎県において、青刈えんばくとして日向収良黒えんばくを利用する場合の播種期は9月下旬前後に早播きする方が良く、その場合の収穫期は、出穂初期より乳熟期前後に1回だけ刈取るか、又は1回目を年内に早刈りするか、出穂初期に刈取つて、その再生を乳熟期に刈取るのが、生草及び養分収量からみて適当と思われる。

本研究は“飼料作物を含む集約輪作体系の確立に関する研究”として農林省の助成によつて行い、宮崎大学、小島、世良両先生の御協力によるもので、ここに心から謝意を表する。